

第5回ブルーカーボン研究会 概要

日時；平成30年3月5日（月） 16時～18時

場所；AP 新橋虎ノ門 11階 B ルーム

概要；

- 今後発生すると予想される浚渫土砂等を活用してブルーカーボン生態系の造成を行うと仮定し、2030年時点での吸収量見込みについて試算した結果、増減要因があるものの、標準的な値では204万 t-CO₂/年、最大で910万 t-CO₂/年と見込まれる。

- 今後は、実証実験等を通じて試算精度を高めていくとともに、ブルーカーボン生態系の活用に向けた検討を進めていく必要がある。